

## 令和3年度 仙台市農政推進協議会議事の概要

日時：令和4年2月7日（月）

午後1時30分～午後3時10分

場所：仙台市役所本庁舎 3階 第一応接室

### 1. 出席者

委員 15名（欠席1名）

事務局 12名

傍聴 なし

### 2. 概要

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ

《藤本会長（仙台市副市長）》

#### 3. 協議

##### (1) 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の見直しについて

資料1-1～資料1-3

《事務局説明》

事務局（農業振興課担い手育成係長）

- ・資料1-1～資料1-3により説明

《質疑応答》

品川委員（宮城県農業共済組合地区担当理事）

- ・基本構想については納得いく今後の目標が示されていると感じる。
- ・大豆の生産は、作付については限度がきており、これ以上の面積は拡げられない。集団転作で大豆の生産をしており、中にはブロックローテーションをしているところもあるが、何年も生産していると単収が上がらなくなるのが現実である。これ以上大豆でやっていくというのは今のままでは難しいと感じている。
- ・飼料用米も需要があれば供給される。供給ばかりあっても、需要が伸びていくのかどうか懸念される。家畜に与える量も限度があるということを踏まえると全国的に飼料用米が拡がっていくのは難しいと感じている。ただし、主食用米から脱却するためには飼料用米を推進する必要があると思う。
- ・子実用トウモロコシを推進していくべきではないかと思っている。管理が難しくなく、土づくりがしやすいが、収穫のための機械が専門的に必要となる。宮城県内では大崎市で大々的に取り組むとのことだが、仙台市にも耕地があるので、試験的に進めるなどトウモロコシを検討していただきたい。

### 事務局（農業振興課長）

- ・大豆・麦の転作については、集落の生産組合にお願いしているところである。それらの労働力、保管容量の関係でこれ以上の規模拡大は難しいとのことだが、そのとおりだと認識している。
- ・飼料用米+大豆・麦の二毛作としているが、あくまで大豆等についてはこれ以上規模拡大するのではなく、必要な転作面積については、今のところは飼料用米でカバーせざるを得ないということで試算している。
- ・子実用トウモロコシについては水田で栽培できる作物として検討している。来季JAにおいて東部地区で実証を行うとのことであり、今後注目していきたい。
- ・水田で園芸作物を展開できるかどうかは最大の課題である。本市では、現状はそこまで至っていないが、それらも踏まえ、転作の厳しい状況の解決に努めていきたい。

### 藤本会長（仙台市副市長）

- ・議論した内容を基に、農業関係団体との意見聴取、宮城県への協議に進めさせていただきたいが、よろしいか。  
⇒全員了承
- ・協議事項について、事務局で対応をお願いします。

## 4. 報 告

### (1) 農業経営改善計画等の審査について 資料2

#### 事務局（農業振興課長）

- ・資料2により説明 ⇒各委員から意見等なし

### (2) 水稻経営継続支援事業について 資料3

#### 事務局（農業振興課長）

- ・資料3により説明 ⇒各委員から意見等なし

### (3) 令和4年度仙台市農林関係予算（案）について 資料4

#### 事務局（農政企画課長）

- ・資料4により説明

### 《質疑応答・意見等》

#### 野口委員（みやぎ生活協同組合生活文化部くらしの推進課分野活動推進グループ）

- ・地産地消について、SNSでの情報発信とのことだったが、どのような形で行っているのか。

#### 事務局（農政企画課長）

- ・農政企画課にて令和3年7月からSNSとしてはインスタグラム「とれたて仙台」を運用している。市内産農産物の生産状況や農産物を使用して料理を提供してい

る飲食店、レシピなどの情報を動画も含めて発信し、広く地産地消をPRしている。

- ・登録者数は令和4年1月末時点で650件程度である。今後内容をより充実させ、啓発をさらに進めていきたい。

#### 小野寺委員（仙台市議会経済環境委員会委員長）

- ・農作物有害鳥獣対策の費用は、今年度と比較して同程度なのか。
- ・新規の「効果的な地域ぐるみ捕獲対策関係事業」は効果的、効率的なものとして、何か検討しているものはあるのか。

#### 事務局（農業振興課長）

- ・農作物有害鳥獣対策の費用は令和3年度予算と比較して大きく変わっていない。
- ・「効果的な地域ぐるみ捕獲対策関係事業」は市単独事業である。集落によって被害や捕獲数に差異が出ており、箱罾への給餌や見回りの仕方、周辺環境整備などに差がある。1年に1回集合研修を行う。事業の委託先には捕獲数が多い集落を訪れて取材し、他との比較検討を行いフィードバックしてもらうことを考えている。

#### 小野寺委員（仙台市議会経済環境委員会委員長）

- ・昨年末から岩切地区でイノシシがかなり出没しており、年明け後は罾をしかけてから7頭捕獲している。昨年まではこのような話はなかった。岩切地区は開発が進んでいることから行き場を失ったイノシシが出てきているということがある。
- ・地域によって様々な要望があると思うので、地域と丁寧話し合い、できるだけ被害を最小限に食い止められるようにしていただきたい。

#### 齋藤委員（一般社団法人 IKIZEN）

- ・「農業生産工程管理（GAP）の普及促進」について、実績としてどのようなことに予算が使われているのか。

#### 事務局（農業振興課長）

- ・GAP認定の取得に対する補助を行っている。一度認証されても毎年更新のために大きな金額が必要となるため、その経費を一部補填している。市内でGAP取得をしているのは2経営体となっている。GAP取得により販売が向上するなどの具体的な効果が見えていないこともあり、うち1経営体は継続を見合わせるという話も出ている。